



どっこいしょ

Dokkoisyo



2017.5.1 (月) 第29号

創造と絆創膏

～ 校訓 自主・協同・創造 より～



2年目の胡蝶蘭→
(校長室)

創

ソウ、きず、はじめる、つくる
 』(はもの)と、音を表す倉(ソウ:きずつける意)とからなり、はものできずつける意味を表す。ひいて、木材をきざみ、ものをつくりはじめるの意味に用いる。

部活動等の記録

【男子バスケット部】
 第63回明石市バスケットボール優勝大会
おめでとう! 優勝

【女子バレーボール部】
 第30回佐々木杯争奪春季バレーボール大会
第3位

お知らせ

吹奏楽部のマーチング響け!未来へ!大空へ!
BRASS EXPO

▲5/7(日)万博記念公園に江井島中の吹奏楽部が出演します。
 10:30 公開リハ
 12:15 パレード
 14:00 フェスティバル



創 吉野 弘
 創造の創も絆創膏の創も同じ創なのだ
 創造らしい創造をする精神は、そのいとなみに先立って、何等かのきずを負っているのではないか。
 きずを自らの手で癒そうとすることが創造につながるのではないか。
 その好例が、植物の挿し木。茎や枝を切って、地中にさし込めば、傷口から初々しい根が生えてくる。
 このことこそ、きずが創造につながることを示す姿ではないか。

『詩のすすめ』

「創」という漢字は、不思議な漢字です。「つくる、はじめる」の意味がありますが、「きず」という意味も持っている。詩人の吉野弘さんは上記のような詩作をしています。絆創膏を例えに出してこころが、なるほどという感じがしませんか。ケガをした時、擦りむいた時、冬場などは冷たい水仕事でできてしまった“あかぎれ”した指先などに、この“絆創膏”を貼る人も多いのではないのでしょうか。

音声として耳にする“バンソウコウ”の響きには、この「創」という漢字は思い浮かびません。でもでも、漢字の成り立ちを調べてみると、このように面白いことに気づかされます。

校訓にある「創造」という文字。漢和辞典には「新しいものをはじめて作り出すこと。人まねではなく、新しいものを自分から作り出す」とあります。

そのためには、自分や自分の周り、広く世の中をよくよく観察し、振り返り、調べてみることで、これまでの自分や自分の周りにメスを入れ、新たなものを作り出していくことにつながると言えるのではないのでしょうか。そこには、何らかの痛みや悩み、我慢が伴うこともあるでしょう。人(特に家族)に言われることが多いかな。

いよいよ5月になります。1年生は中学生としてひと月を過ごしました。学習、生活、部活動、家庭での生活は充実していたでしょうか?まだまだ慣れるまでには時間がかかることでしょう。先生、先輩、同級生、そして家族とともにしっかりと話をして、新しい自分を創造してみよう。

2年生は、6月のトライやる・ウィークに向けて取組が進んでいます。2年生の副担の先生方も毎日のように事業所訪問し、打ち合わせをされています。

3年生は、普段の学習に加え、連休明け5/9(火)からの修学旅行(沖縄)に向けて平和学習や取組を続けています。4/28は折り鶴制作がありました。連休が控えています。持ち物、荷物の準備を行い、体調管理を十分にしておこう。